

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

（代表者 博田 英明 会員数 約60,000人）

T E L 03-3267-8583

1 前 文

1990年から2020年まで実施された「大学入試センター試験」が廃止され、2021年より「大学入学共通テスト」が新たに開始され、今年で2年目となる。従来のセンター試験からの変更点は、配点が50点から100点へと倍増したこと、「多様な話者による現代の標準的な英語を使用する」という観点から「イギリス英語」も使用されていること、さらに「1回読み」問題が導入されたこと等があったが、受験者にとっては少しずつ新しい形式への慣れが出てきているとも思われる。今年度も、「知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針が色濃く反映されたものとなった。後に詳述するが、形式・内容ともに前年度をほぼ踏襲しており、難易度もやや易化したと思われる。丁寧に準備した受験者にとっては、十分な対応ができたと考えられる。

令和4年度から開始される新しい高等学校学習指導要領（英語）では、『統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目』と、『話すことと書くことによる発信能力の育成を強化する科目』がそれぞれ新設された。外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることを目標としており、共通テストではその点が反映されることがさらに今後の課題となる。

2022年度の大学入学共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学は、864大学となり、内訳は、国立大学が82校、公立大学が93校、私立大学が533校、公立短期大学が12校、私立短期大学が137校、公立専門職大学が2校、私立専門職大学が5校となっている。今後も利用が進んでいくことが予想される。

リスニング受験者数は本試験と追試験を合わせ480,053人で、前年度の476,167人からは若干増加している。教科選択率を見ても、英語の成績が文系理系を問わずすべての受験者の大学合否に大きく関与している。

本試験の平均点は、一昨年度が28.78点（100点換算で57.56点）、昨年度は56.16点、今年度の平均点は59.45点であり、前年度よりも+3.29となり、やや上昇した。平均点と難易度は直結するものではないが、難易度についてはやや易化したといえる。

読み上げられた英語の総語数は約1,532語（昨年度は約1,520語）でほぼ変わらず、設問と選択肢の総語数は約562語（昨年は約571語）で、こちらも前年度並みとなった。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

試験問題の構成は大きく次のようなものであった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A：短文内容一致問題	2
		3	B：短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	2
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A：モノローグ図表完成問題	1
		1	B：複数のモノローグ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A：2者対話文選択問題	1
		2	B：4者対話文選択問題	
合計	100	37		

出題形式は昨年と同じで、大問6題からなる構成で、配点にも変化はない。読み上げ回数は第1問・第2問が2回読み、第3問～第6問は1回読みであり、これも昨年から変化はない。イラストやグラフ、表が数多く使用されており、単に英語を聞き取るだけではなく、目的に応じた思考力・判断力が問われる内容になっている。また、アメリカ人話者だけでなくイギリス人話者や、日本人と思われる非ネイティブ話者が含まれていた。

第1問 短い発話を聴いて、内容に関する選択肢を選ぶ問いである。Aは短い発話を聴き取り、設問の問いに最も適する選択肢を選ぶ問題。状況を要約したり、発話のやり取りから導くことのできることを判断したりする力が求められた。Bでは短い発話を聴いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。難易度としては標準レベルであり、設定も日常的なものであり、短い発話から状況や情景を把握させ、絵という視覚情報を選択させるという設問形式は好ましいものである。ただし、短い発話であるため、やや唐突に始まる印象がある。最初の問題はできるだけイメージしやすい設定の問題から始めて、徐々に英語に耳を慣らせていくような流れが望ましい。

問1 「宿題は終わりましたか？私はちょうど終えたところです。」という発話を、The speakerを主語として客観的に説明する文章を選ぶ問題。

問2 Do you mind if ～？の構文の理解が必要となる問題。

問3 「電車に乗るところなので、後でかけなおしてよいですか？」という発話を、The speakerを主語として客観的に説明する文章を選ぶ問題。

問4 「パンとミルクはあるけれども卵がない。買いにいかなければならない。」という発話を、The speakerを主語として客観的に説明する文章を選ぶ問題。

問5 「時計の下で花のとなりにある本」の位置を示す絵を選ぶ問題。

問6 「ホテルは病院より高いが、木が一番高い」という内容に合致する絵を選ぶ問題。

問7 「座れるテーブルがない。満員だ。」という発話に一致するイラストを選ぶ問題。興味深いアプローチである。

第2問 短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。これま

でもあった形式ではあるが、設問に示されている日本語の情報把握が重要であるため、今後受験者はこの形式に慣れておく必要がある。短い時間の中で、複合的な作業を素早く行うことを要求しているため、与えられる状況は日常生活に根差している事柄や、現代的なテーマを用いることによって、受験者にイメージしやすいものが設問とされることが望ましい。難易度としては標準レベルであるが、イラストの設定については、思考に不必要な負担をかけることのないように、今後も工夫されることを期待する。

問8 失くした手袋について、手袋の特徴を示す発話から、それに合致するイラストを選択させる問題。

問9 どのスピーカーを買うかについてやり取りしている対話を聞く問題である。外に持ちだして使用し、四角いもの、そして時計表示があるものという3点を押さえなければならず、さまざまな情報から、適語するイラストを選択する問題となっており、良問である。

問10 弟が出かけようとしている姉の装いについて対話している問題。

問11 車を停めたところについてやり取りしている対話である。エレベーターに近く、店に直結している場所を探すことになるが、イラストがわかりやすく、純粋に聴解力を聞くことのできる良問である。

第3問 短い対話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。またこの問では、出題方針で予告されていた「イギリス英語」が使用されている。短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。「多様な話者による現代の標準的な英語」を使用するという点で、新傾向は好ましいものであると考える。

問12 道行く人に短いインタビューを求める対話。

問13 姉が弟と、いつ両親に会いに行くかについて話をしている対話。情報整理が細かいが、日常生活ではよくある場面であり、設定が好ましいものといえる。Why don't you go ahead without me? という発話は平易でありながら、確実な知識を問うものでもあり、バランスの良い出題といえる。

問14 友人同士がアルバイトについて対話している場面であるが、アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている問題。昨年度共通テスト(1)では、このようなケースでは「イギリスにいる弟が、東京に住んでいる姉と電話で話をしている」という場面設定が与えられていたが、今年の本試験にはその種の導入はなかった。聞き取る英語の種類が変わることで、受験者には一定の焦りが感じられるかもしれないが、3回目となる来年以降は、追試験においても無理に設定を導入する必要はないかと思われる。それよりも自然な場面設定に注力すべきであると考えられる。

問15 アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている問題。公園から帰った後の、姉と弟の対話であるが、ややコンテキストに現実性を感じられない部分もある。end upという重要表現の理解を求めている。

問16 オフィスでの、男女の対話であるが、この問題もややコンテキストに現実性を感じられないものであった。

問17 学校での友人同士の会話であり、実生活で交わされそうなやり取りであり、好ましい問題である。「助動詞+完了形」の理解が必要となり、正しい聴解に必要な知識の理解を求めている点も、バランスが良いといえる。

第4問 Aは読まれる説明を聴き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は昨年のグラフ

の問題ではなく、4つのイラストを時系列に並べる問題が出題されており、数の聴き取りは出題されなかった。Bでは、4人の話者の説明を聴き、設問に合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聴き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましいと考えているが、解答にはある程度の時間がかかることも確認されたい。問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。聴いているうちにどの人の発言だかわからなくなった、せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかったという受験者の声も聞こえてきている。上にも述べたとおり、聴解力とは異なる点で受験者に負荷をかけすぎる出題は再考頂きたい。また、出題の方向性は好ましいものであるので、解答時間についてさらに検討をお願いしたい。

問18～21 「両親の日」についての催し物についての説明を聞いて、示されたイラストで時系列を答える問題。

問22～25 「留学先の世界の食品フェアで商品がどのように分類されているか」についての発話を聞き、買うものがどのセクションにあるかを答えさせる問題。交錯する情報を一回読みで整理するのは難しいと感じた受験者はいたと思われる。

問26 「ある美術館の館内ツアーを決めるために、4人の学芸員の話を読み、条件に適合するものを選ぶ問題。示されている表を活用することを前提としており、取り組みやすく、望ましい出題であると考えられる。

第5問 大学で「ミツバチ」についての講義を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用して、ノートテキングをすることが必要になる。聞き取った内容とグラフから読み取れる情報を組み合わせて要点を把握する複合的な作業を必要とする。日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましい出題であるが、前問と同様に、問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかったという受験者の声も聞こえてきており、その点は再考をお願いしたい。

問27～32 ワークシートに入るべき事項を選択肢から選ぶ問題と講義の内容を選択させる問題。1回読みであるため、情報の処理時間および解答行動に時間を要し、次の設問への十分な準備が難しかったと思われる。

問33 図から読み取れる情報と講義全体の内容から言えることを選択する問題。グラフが示す内容をしっかり把握することが必要であり、さらに選択肢の確実な読解も必要になる。複合的で難易度が高いが、聴解力としては伸ばすことが必要部分でもある。ただし、前述のように設問に十分対応する時間があつたかどうかについて再考をお願いしたい。

第6問 Aは2人の会話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは4者の会話を聴き取り、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見に合う図表を判断する力が問われた。昨年は4者の会話において、「誰が話しているか」を把握することが難しかったが、今年は話者の声や英語が特徴的であったため、昨年よりも改善されていた。ただし、選択肢のグラフに示されている情報も少なくなく、これらを聞いた内容と複合的に処理するにはある程度の時間も必要である。前問と同様に、せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかったという受験者の声も聞こえてきており、その点は再考をお願いしたい。

問34～35 日本語で書かれた状況を踏まえて、話者の主張の要点と合致する選択肢を選ぶ問題。

問36 4人の話者のうち、選挙の投票に行くことに積極的ではなかった人の数を問う問題。

問37 会話の内容を踏まえて、ある話者の意見を反映している表を選択する問題。

3 ま と め

「大学入学共通テスト問題作成方針」に示されているように、「高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力・判断力・表現力等を明確にした上で問題を作成する」という方向性は今回の共通テストにおいて明らかに反映されている。こういった傾向は望ましいものであり、教育現場での授業改善にも確実に繋がっていくものであると評価したい。ただし、思考力を問うことが目的でありながら、結果的に情報を処理する能力や、さらにそれを速く行うことを求めるような問題設定となってしまうことは避けるべきである。今年度の問題では、昨年度の課題が改善された箇所が多くあったと思われる。一方で、設問間の時間が十分に取れないことによって思考する時間を確保するのが難しい設問もあったように思われる。1回聴き取った内容について複数の資料を読み解く点で受験者への負荷は高まっている。より基本的な聴解力が身につけているのかを評価するような問題作成もお願いしたい。「知識・技能」を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力等を中心に評価する試験問題の作成にあたっては大変な御苦労があるものと推察するが、これまでのセンター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしながら、受験者の学びの動機をさらに高める性質の作問をお願いしたい。グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す5領域のバランスの良い育成が求められている背景を踏まえ、受験者が身につけるべき資質・能力を育成できるように、主体的な学びを促進する試験が安定的に作成されることを希望する。